

# 埋文にいがた

MAIBUN

新潟県埋蔵文化財センター

MAIBUN  
NIIGATA

2020 June.

第111号

本発掘  
調査遺跡  
紹介

企画展・少年少女考古学教室案内



令和2年度春季企画展「縄文の巨木柱とマツリー糸魚川市 寺地遺跡」  
会期：4月10日（金）～8月23日（日）

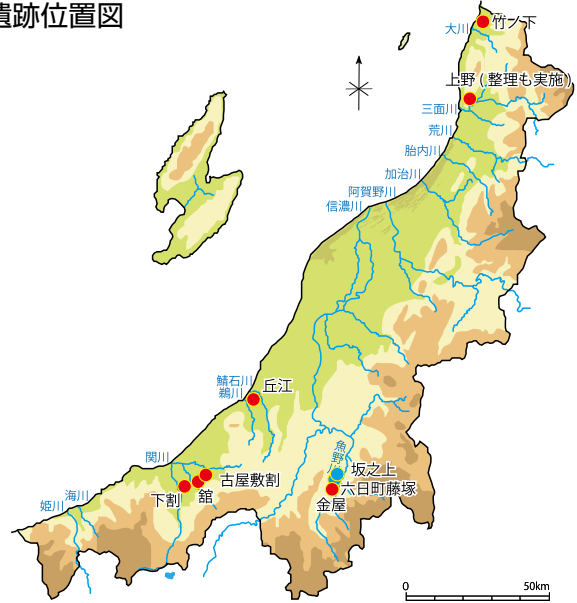




# 令和2年度 本発掘調査遺跡・ 整理遺跡の紹介

令和2年度は、本発掘調査を村上市竹ノ下遺跡・上野遺跡、柏崎市丘江遺跡・山崎遺跡、南魚沼市金屋遺跡（8月ころ着手予定）、上越市下割遺跡・館遺跡・ふるやしきわり古屋敷割遺跡の8遺跡、整理作業を村上市上野遺跡、南魚沼市六日町藤塚遺跡・坂之上遺跡の3遺跡について実施しています。

## 遺跡位置図



### かみの 上野遺跡 (村上市猿沢)



縄文時代後期の大規模な集落跡です。集落の本体と土器捨て場を調査します。

### おかえ 丘江遺跡 (柏崎市田塚)



中世と弥生時代後期の遺跡です。中世の建物や井戸・水田跡の発見が期待されます。

### ふるやしきわり 古屋敷割遺跡 (上越市三和区上広田)



平安時代から中世の遺跡です。溝や井戸などが発見されています。

### たて 館遺跡 (上越市駒林)



平安時代と古墳時代の遺跡です。平安時代の建物や井戸・溝が発見されています

### しもわり 下割遺跡 (上越市米岡)



縄文時代から中世まで断続的に営まれた遺跡です。高田平野では数少ない縄文時代の遺物の出土が期待されます。

### かみの 上野遺跡 (村上市猿沢)、 むいかまちふじつかいせき 六日町藤塚遺跡・ さかのうえ 坂之上遺跡 (南魚沼市余川)



今年度は3遺跡の整理作業を進めています。上野遺跡は縄文時代後期の遺跡で、整理作業は昨年度から継続しています。今年度は土器の復元や実測・拓本、石器の分類・実測遺物の抽出などを行います。

六日町藤塚遺跡・坂之上遺跡（写真）はともに古墳時代中期・後期の遺跡で、今年度は土器の接合・復元、実測などを行います。



## 埋文 コラム

# 縄文時代の道具 石冠

上部が斧形（山形も含む図1）・球頭形（図3）で、底部が長方形・方形・円形の石製品です。珍しい形から江戸時代後期（1779年）には「神代石」（古事記や日本書記などに記された神武天皇による建国以前の時代＝神の時代に製作された石製品）として紹介されています。「石冠」という名称は、明治22（1890）年には登場していて、今に引き継がれています。愛知県保美貝塚からは、人の頭骸に接着して検出されたことから、頭部を保護したものという説も唱えられましたが、引き継がれていません。今から約3,500年～2,400年前の縄文時代後期中頃から晩期に盛んに使われた道具です。

日本国内でも中部地方とされる愛知県・長野県・石川県・富山県・新潟県で日本国内全体出土量の80%を占めるとされ、中でも新潟県ではとても多く見つかっています。どのような形態まで石冠に含めるかでカウントの方法も違ってきますが、上越市籠峰遺跡では66点も見つかっていて、全国で最多の出土量を誇ります。また、村上市元屋敷遺跡では、製作途中の石冠が多く見つかっていることから、自分のムラで使用する以外に他のムラにも供給していたと考えられます。

石冠は何を表した何の道具か。上部の形と底部の形の組合せは様々ですが、上部の球頭形は石棒状（男根）、斧形と共に男性原理、底部は女性原理の凹部（図2）で、男性・女性の両性具有の呪術具とする説が有力です。

男根の形をした石棒は、今から約5,000年前の縄文時代中期には各地域のムラで数多く見つかるようになります。また、斧も世界の民俗例から、男性専用の道具で、女性が嫁ぐときの嫁入り道具として男性に献上されたという報告もあります。博物館や資料館で展示されている石冠は、底面をみることがあまりできませんが、見えない場所にもその道具の大きな意義が潜んでいる場合も少なくありません。石冠の底面には、全てではありませんが、製作時に女性器のように凹ませたもの、直

線上に凹ませたものや、磨き上げた後に対象物を叩いて凹ませたものもあります。

石棒や石斧は石冠が使用され始めた縄文時代の後期中頃より前からあります。また、石冠に似た形をした三角形をした石製品は、縄文時代中期にあります。このようなものを祖型として、後期中頃以降、特に晩期に入って数量が大きく増加する謎の石冠は、大陸から農耕が伝わったとされる弥生時代に入ると姿を消します。（滝沢規朗）



図1 阿賀町北野遺跡の石冠（斧形）

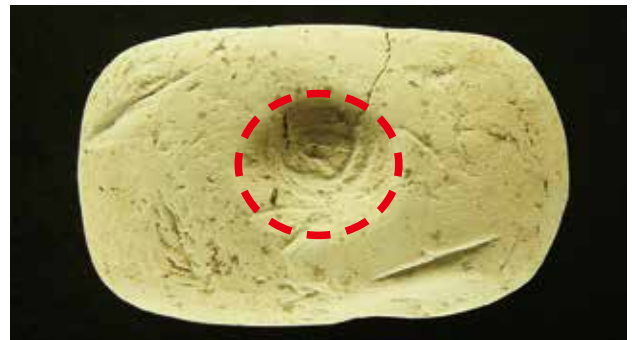


図2 図1の底面（赤点線部分が凹み）



図3 阿賀野市山口野中遺跡の石冠（石棒状）





埋文  
インフォ  
メーション

令和2年度年度春季企画展  
縄文の巨木柱とマツリー糸魚川市 寺地遺跡ー

本展は、縄文時代の巨木柱と配石遺構はいせきいこうが見つ  
かっている糸魚川市寺地遺跡いといがわ てらじを取り上げ、県指定  
品を含む出土品を一堂に集めたものです。遺跡は  
旧青海町の田海川左岸に沿って形成され、海岸線  
までは約500mです。昭和43～48年に行われた発  
掘調査で、縄文時代中期のヒスイ製玉製作に関連  
する竪穴建物たてあなたてものや、縄文時代晩期の配石遺構はいせきいこうが見つ  
かりました。特に、配石の中に4本の巨木柱を伴  
う有柱方形配石ゆうちゅうほうけいはいせきや焼人骨を伴う炉状配石ろじょう、石棒せきぼうや  
石冠せつかんなどの遺物は、寺地遺跡特有のマツリが行わ  
れていたことを示すものとして注目されています。  
昭和55年に国史跡に指定されました。

さて、展示中の巨木柱（図1）は当初、有柱方  
形配石から出土したものととして展示してしま  
った可能性が高いことが分かりました。ここで  
お詫びし、訂正いたします。長さ1.1m、幅56cmで、  
丸太材を縦半分に割った半割材はんかつざいです。樹種を分析  
したところ、スギではなく、クリと判明しました。  
年輪は102年分あり、福島大学の木村勝彦教授に  
よって酸素同位体比分析さんそどういたいひぶんせきが行われた結果、外側の  
年輪が紀元前978年と初めて分かりました。

有柱方形配石の周縁に並べられた大きな石の中

には、縄文時代中期の大型石棒を再利用したもの  
が含まれます（図1）。御物石器ぎよぶつせっきは北陸地方に特  
有のもので、側面に立体的な浮彫りが施されるも  
のがあります（図2）。土偶には東北地方を中心  
とする遮光器土偶しゃこうきどぐうが含まれ、遠隔地との交流を物  
語ります（図3）。配石遺構の周辺からはヒスイ  
の原石や粗割りした剥片はくぺんが多数見つかりま  
す。ヒスイ製勾玉まがたま・丸玉・垂玉かつせき、滑石製の大型勾  
玉もあり、玉の製作が盛んに行われました（図4）。

平成25年の調査で出土した縄文時代晩期の丸木  
舟は、縄文時代のものとしては新潟県内で2例目  
です（図5）。平らに削られた広い底面が特徴で、  
側面は丸太材の心のより高い位置まで伸びてい  
たと考えられます。本来の大きさは、幅約1m、深  
さ約40cm、長さは6m以上と推定されます。こ  
うした大型品は海辺の遺跡で見つかることが多  
く、海用の可能性があります。特産品のヒスイ製  
装身具じやもんぐや蛇紋岩製磨製石斧まぜいせきふを作り、全国への流通  
を担っていた寺地遺跡から大型丸木舟が見つ  
かったことは、縄文時代における交易の具体像を知る  
うえで画期的な発見と言えます。（荒川隆史）

◆ 期 日：令和2年8月23日(日)まで

◆ 観覧料：無料



図1 巨木柱と石棒



図2 御物石器



図3 土偶



図4 勾玉・垂玉・丸玉ほか



図5 丸木舟



## 埋文 インフォ メーション

### 少年少女考古学教室 参加者を追加募集！

前号でもご案内しました、令和2年度の少年少女考古学教室。当初、参加条件として全4回に参加する方としていましたが、第2回からの参加もOKとして、追加で募集します。

第1回目に間に合わなかった方も、発掘体験に参加できます。その他、さまざまな体験を通して、縄文時代について学びます。そしてその成果を、県埋蔵文化財センターで発表し、展示します。地域や学年の違う仲間たちと一緒に学びながら、考古学者を目指しましょう！

第2回 8月21日(金) 9:30~16:30  
「遺跡に行こう！

発掘体験と縄文ポシェット作り体験」

第3回 10月18日(日) 9:30~15:00  
「縄文人の技を体験しよう！

石斧・土器煮炊き体験」

第4回 12月6日(日) 9:30~15:00  
「まとめ発表会—展示準備をしよう—」

展示会 12月6日(日) ~1月11日(月)

◆ 対象：小学4年生~中学3年生の25名  
(先着)

◆ 条件：第2~4回全てに参加する方

◆ 参加費：無料

◆ 申込期間：7月31日(金)まで

◆ 申込方法：氏名・学年・住所・電話番号を添えて当センターまでお申し込みください。

◆ 電話：(0250) 25-3981

◆ FAX：(0250) 25-3986

◆ メール：niigata@maibun.net

※新型コロナウイルス感染症の状況により、計画変更の可能性があります。



発掘体験



石斧体験

### YouTubeチャンネル開設！ 動画配信を開始しました。

新型コロナウイルス感染症対策により、当センターへの来館を自粛されている方(特に遠方の方)も多いかと思えます。そんな方に、少しでも当センターの情報を発信したい、また、より多くの方に郷土の歴史や埋蔵文化財への興味・理解を高めてもらいたいと思い、この度、YouTubeのチャンネルを開設し、動画配信を開始しました。

第1弾として配信したのは、春季企画展「縄

文の巨木柱とマツリ —糸魚川市 寺地遺跡—」の紹介動画です ([https://youtu.be/\\_XIxGGn\\_twA](https://youtu.be/_XIxGGn_twA))。ぜひご覧になってください。今後は、常設展の展示や当センターそのものの紹介などを配信していきたいと考えています。

この他、当センターではホームページやfacebook、Twitterなどでも情報発信をしております。ぜひご覧ください。



県内の  
遺跡・遺物  
109

そうまぎよふう  
相馬御風宅

昭和27年12月10日 新潟県指定史跡  
遺跡所在地：糸魚川市

相馬御風（本名：昌治）は明治16（1883）年当地において生誕し、昭和25（1950）年5月8日に現存する二階の書齋で逝去しました。御風の雅号は短歌の創作活動から名乗り始め、旧制高田中学校（現・高田高等学校）を経て東京専門学校（早稲田大学の前身）に学び、東京で名声を高める活動をしたのち、大正2（1913）年には糸魚川へ戻って良寛研究などに多くの著作を残しました。

特に、考古学との関係深い業績としては、上越考古学会会長を務め、西頸城郡下の歴史資料を収集・展示した『西頸城郡郷土史料展覧会』の開催であろう。考古遺物を含む943種約2,000点が当時の糸魚川高等女学校に集められ、3日間公開され、陳列品目録も発行されました。この時、東京帝室博物館高橋健自<sup>たかはしけんじ</sup>氏を招くなど、考古学研究者との交流も深い。

また、ヒスイ国内産出地発見にも関与していることが知られ、後に長者ヶ原遺跡発掘調査へも繋がる、八幡一郎<sup>やはたいちろう</sup>氏との逸話も重要であろう。御風と考古資料との関係では、天津神社境内（一の宮遺跡）出土の石製模造品<sup>せきせいもぞうひん</sup>や、『野を歩むもの』に記載のある姫御前・笛吹田遺跡<sup>ひめごぜ ふえふきだ</sup>を踏査した際の遺物など、地域研究の基礎資料として散逸を防ごうとした姿勢がうかがえます。御風が亡くなった1ヶ月後、國學院大學大場磐雄<sup>おおばいわお</sup>氏一行を青木重孝<sup>あおきしげたか</sup>氏が長者ヶ原遺跡<sup>ちやうじゃがはら</sup>へ案内し、ヒスイの表面採集によっ

て、調査気運がより一層高まりました。

なお、史跡指定地に現存する家屋は、近代和風建築としても評価が高く、明治44（1911）年の大火で焼失して再建された家屋が昭和3（1928）年の大火で再び被災し、再建されたもので御風生誕時のものではありません。この建造物は典型的な「町屋」であり、加賀街道に面した間口は狭く、奥行きが長いことが特徴です。現在、両側に建っていた家を取り壊され、往時の屋並を偲ぶことはできませんが、日本列島におけるヒスイ再発見へと繋がる思索や発想を生んだ活動拠点に是非とも足を運んでください。

（糸魚川市教育委員会文化振興課 山岸洋一）



相馬御風宅全景



埋文にいがた 第111号 令和2年6月26日発行

発行 新潟県埋蔵文化財センター Niigata Prefecture Archaeological Research Center

指定管理者：公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

〒956-0845 新潟市秋葉区金津93番地1 TEL:(0250)25-3981 FAX:(0250)25-3986

E-mail: niigata@maibun.net URL: http://www.maibun.net/



『埋文にいがた』のバックナンバーは（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団 HP でご覧いただけます。上の URL からご確認ください。